

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大牟田市立倉永小学校（※正式名称を記載）

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫※注 1

☐ 中学校 ☐ 中高一貫※注 2 ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒 8 3 7 - 0 9 0 6

福岡県大牟田市大字倉永 1 3 0 7 番地

E-mail kuranaga-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website <http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/kuranaga-es/>

幼児児童生徒数 男子 104 名 女子 97 名 合計 201 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 報告期間

平成 2 9 年 4 月～平成 3 0 年 3 月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

（1）活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

当校は、校区にある「ひと・もの・こと」とのつながりを大切にして ESD の実践を 2 つの柱で行っている。1 つは「福祉・ボランティア」である。校区にある様々な史跡と出会い、地域の人達と出会い、校区のよさや地域の人達の頑張りを目を向けることで、これまで見過ごしてきた自分たちの住んでいる地域のよさを発見し、自分自身の地域との関わりを見つめ直すことを目標とした。具体的には、① 5 年総合学習「倉永ふるさと再発見」、② 6 年総合学習「倉永スマイルプロジェクト」である。

2 つ目は「読書活動」である。様々な読書活動を行うことで読書に親しむ子どもの育成を目標とした。具体的には「仲間とつなぐ読書活動」・・・縦割りペア読書、家族読書の日便りづくり。「地域とつなぐ読書活動」・・・保護者・朗読ボランティアの読み聞かせ、中学生、高校生による読み聞かせ、本校図書委員による公民館や老人施設での読み聞かせ。「郷土とつなぐ読書活動」・・・5 年生総合学習「絵本作家内田麟太郎に学ぼう」である。

これらの取組を通して、自分たちの住んでいる地域に誇りを持ち、町の発展に尽力している人々から学び、ともによりよい地域なるよう協働できる児童の育成をねらっている。

今年度は 1 月に行われた大牟田市の「ユネスコスクール子どもサミット」で 5 年生が本年度は 1 月に行われた大牟田市のユネスコスクール子どもサミットで 5 年生が「仲間・家庭・地域・郷土とつながる倉永の読書活動」というテーマで本校の読書活動の取組と総合学習「絵本作家 内田麟太郎先生に学ぼう」の学習を紹介した。

① 「福祉・ボランティア」に係わる学習

5年総合学習「倉永ふるさと再発見」では、校区にある史跡の由来をG Tから聞き、実際にG Tとともに巡り、校区には様々な史跡があり、それらの素晴らしさに気づいた。その後、縦割りグループで校区の史跡を巡る「倉永スタンプラリー」を行い、5年生児童がいくつかの史跡の歴史を説明した。

6年総合学習「倉永スマイルプロジェクト」では、校区や学校の課題について調べ、地域の人達と協力して、自分たちの校区や学校を住みやすいところにする活動を考え、取り組んだ。

② 「読書活動」に係わる活動

「なかまとつなぐ読書活動」では、1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生の児童がペアとなり、学期に一回朝の時間に上の学年の児童が下の学年の児童に読み聞かせを行った。3学期は下の学年の児童が上の学年の児童に読み聞かせを行った。

「家庭とつなぐ読書活動」では、毎月第一土曜・日曜は「家族読書の日」を設定し、親子で読書を楽しむ日とした。読んだ本の感想を親子それぞれが親子読書カードに書き、月曜日に提出をしてもらった。その後、集約したカードをもとに「家族読書の日便り」を作成し、全校児童に配布した。

「地域とつなぐ読書活動」では、保護者の読み聞かせと読み聞かせボランティア「朗読座」の読み聞かせを毎月一回行った。また、校区のある甘木中学校と明光学園の高等部の生徒の読み聞かせも行った。

「郷土 大牟田とつなぐ読書活動」では、5年総合学習「絵本作家 内田麟太郎先生に学ぼう」を行った。内田麟太郎先生の絵本にふれ、先生の作品の魅力を気づき、絵本の込められた先生の思いや願いを先生のエッセイを読み、知人の方の話を聞く中で自分なりに考えた。考えたことを模造紙にまとめ、それを学校内に掲示したり、市立図書館に数週間掲示して頂いた。



① 「倉永スタンプラリー」で5年生が史跡を説明



③ 家族読書の日のある家庭の写真



② 「倉永スマイルプロジェクト」で地域の方に自分たちの街づくりを提案



④ 市内で行われたユネスコスクール子どもサミットで総合学習「内田麟太郎先生に学ぼう」で学習したことを発表

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(読書活動)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(学校行事)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

内田麟太郎「柿山伏」「なきすぎてはいけない」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

「福祉・ボランティア」に係わる学習については、教育指導計画の各教科の年間指導計画に位置づけ、学年末には教育課程編成会議において、学習過程、指導内容などについて改善に努めている。

「読書活動」に係わる活動についても、教育指導計画の学校図書館教育の年間指導計画に位置づけ、学年末には教育課程編成会議において指導内容、読書活動について見直しを行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

教育指導計画の各教科及びＥＳＤの年間指導計画に学習活動をきちんと位置づけている。講師を招いたＥＳＤに関わる研究授業も行い、校内研修を行っている。また、大牟田市で行われているユネスコスクール及びＥＳＤ研修会に全員参加の体制を整えている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎年、市の教育委員会へＥＳＤの取組についての報告書を作成している。作成した報告書について全職員で成果と課題を明らかにし、来年度のＥＳＤの取組の方向性を検討するようにしている。ＥＳＤの報告書を作成することで本校のＥＳＤには地域との連携が欠かせないことが再認識できた。職員が交代する中でどのように本校のＥＳＤを引き継いでいくのかが課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

本年度は１月に行われた大牟田市のユネスコスクール子どもサミットで５年生が「仲間・家庭・地域・郷土とつながる倉永の読書活動」というテーマで本校の読書活動の取組と総合学習「絵本作家 内田麟太郎先生に学ぼう」の学習を紹介した。多くの人達の前で発表し、拍手をもらったことで子ども達は読書活動の素晴らしさや自分たちが行った総合学習のよさに気づいた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

5年総合「倉永ふるさと再発見」では、地域の方をGTに招いて校区の史跡を巡った。その後行った「倉永スタンプラリー」では校区の民生委員の方々の協力を得て行った。6年総合学習「倉永スマイルプロジェクト」では、校区にある施設の方を招いて認知症についての学習を行った。読書活動では、老人施設や公民館へ出向いて読み聞かせを行った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールの活動によって、地域との連携がこの数年で確実に深まっている。地域の人達と児童との関わり、地域の人達と教員との関わりが多くなることで、たくさんの地域の人達が様々な学習活動に協力して頂くようになった。子ども達も地域の人達からたくさんの言葉をもらい、笑顔あふれる姿が見られる。教員は校区の素晴らしさを肌で感じ、ユネスコスクールの活動に前向きになっている。

(3) 平成 30 年度の活動計画 (200~400 字程度)

- 1 年生「みんなみんな大好きだよ」(福祉・ボランティア) 10 時間
- 2 年生「レッツゴー! 町たんけん」(環境) 12 時間
- 3 年生「ワクワクドキドキお話探偵団」(読書活動) 49 時間
- 4 年生「日本の文化に親しもう」(福祉・ボランティア) 28 時間
- 5 年生「倉永ふるさと再発見」(福祉・ボランティア) 8 時間
「内田麟太郎先生に学ぼう」(読書活動) 23 時間
- 6 年生「倉永スマイルプロジェクト」(福祉・ボランティア) 24 時間